

転ばぬ先の杖 ～春の足音～

校長 竹中 朝崇

富士山に雪が目立つようになりました。三島市のある太平洋側の地域は冬に雨の降ることが少ないので、真冬の富士山の雪は少なくイメージするものとは異なります。むしろこの後、春に向かって南岸に低気圧が通過するようになると雪の量が増えてきますので、富士山の雪を見れば、季節の移り変わりを感じることができます。今年はスギ花粉の量が多い年であると報道されています。すでに花粉症の症状も…。様々な話題から春に向かっていと実感するこの頃です。

2月2日は春の「節分」です。「3日ではないの?」と思っている人はいませんか。地球の公転、つまり1年が365日というのは正確ではなく端数が出ますので、「節分」は年により変わっても珍しいことではありません。そもそも春の「節分」だけが強調されますが、春夏秋冬、季節の変わり目は必ず節分があり、その翌日から新しい季節になります。ということで「立春」。寒い日が続きますが、暦の上ではひと足早く春を迎えます。本校の2月は高校入試があり、1年間の探究活動等の成果発表会があり、修学旅行や中学生のステップアップ研修、そして卒業証書授与式の準備という具合で1年の集大成の時期であり、まとめとして一つの節目の時期を迎えたと言えます。そして3月1日の高校卒業証書授与式が終わると高校1・2年生と中学生は学習の集大成である学年末試験が始まります。試験に向けて準備は早い時期に計画を立て具体的に行動できるように進めることが大切です。2月、心にゆとりが持てる今の時期に自身の1年間の行動について反省をしつつ、次のことを見据え、学年末試験の準備を進めていきましょう。必ず良い結果を残すことができます。

ところで、「転ばぬ先の杖」という言葉をご存知でしょうか。転んでから杖を用意しても何も意味はない。転ぶ前にあらかじめ杖を持っておくべきだということから生まれ、意味は「失敗しないように、前以て（もって）用意しておくこと（広辞苑）」。似たような意味で表現される言葉には「石橋を叩いて渡る」「後悔先に立たず」「備えあれば憂いなし」などあります。昔から準備の在り方が重要であることを様々な言葉で使い説いているのですね。一方で私は最近、大人が子どもたちに対してどのような場面でも杖を準備することに疑問を感じています。もう10年前になるでしょうか。ある取組をしようと準備のために私が文科省を訪れた際、担当の方から「安全な砂場を作ってください。」と言われたことを覚えています。「今の時代、大人は何でも子どもたちに与え、失敗して覚える機会が無くなってきています。学校の教育活動の場で小さな失敗を経験することで、社会に出てから大きな経験として役立つこととなります。小さな怪我をすることは大きな怪我を防ぐことにつながるのです。」というように言われました。社会に出れば思うように行かないことの方が多くあります。もちろん、大きな怪我につながるようなことはあってはいけません。私たち大人の役割の一つが見守ることにあります。そこで提案です。今一度「転ばぬ先の杖」の使い方を考えてみませんか。